

# サロベツ原野周辺のチュウヒの繁殖環境

勉強会「草原のタカ、チュウヒの生態と保全」

2019年10月26日(土) 14:00~16:30

豊富町定住支援センター 多目的ホール

(公財)日本野鳥の会 自然保護室

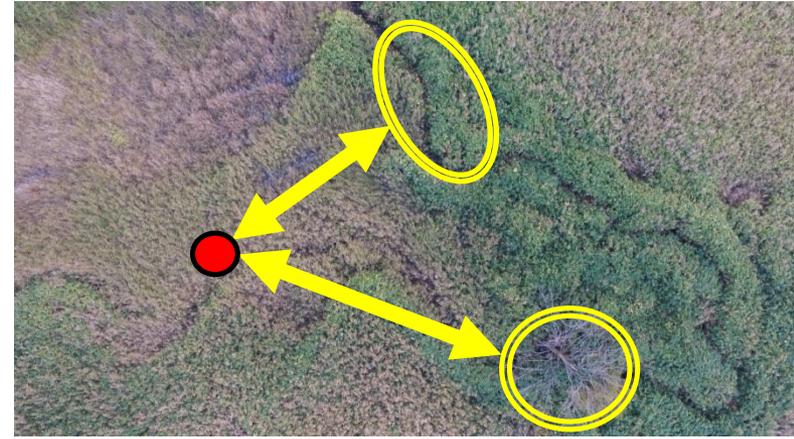
主任研究員 浦 達也



撮影:岡田 宇司

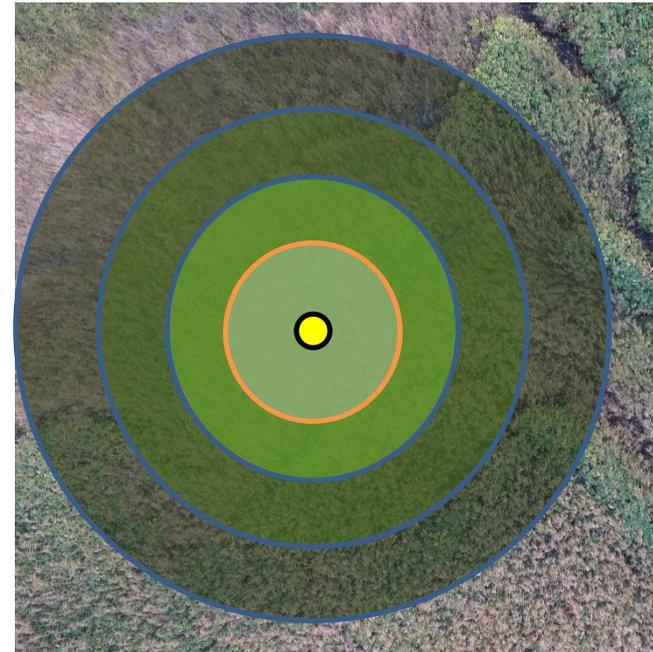
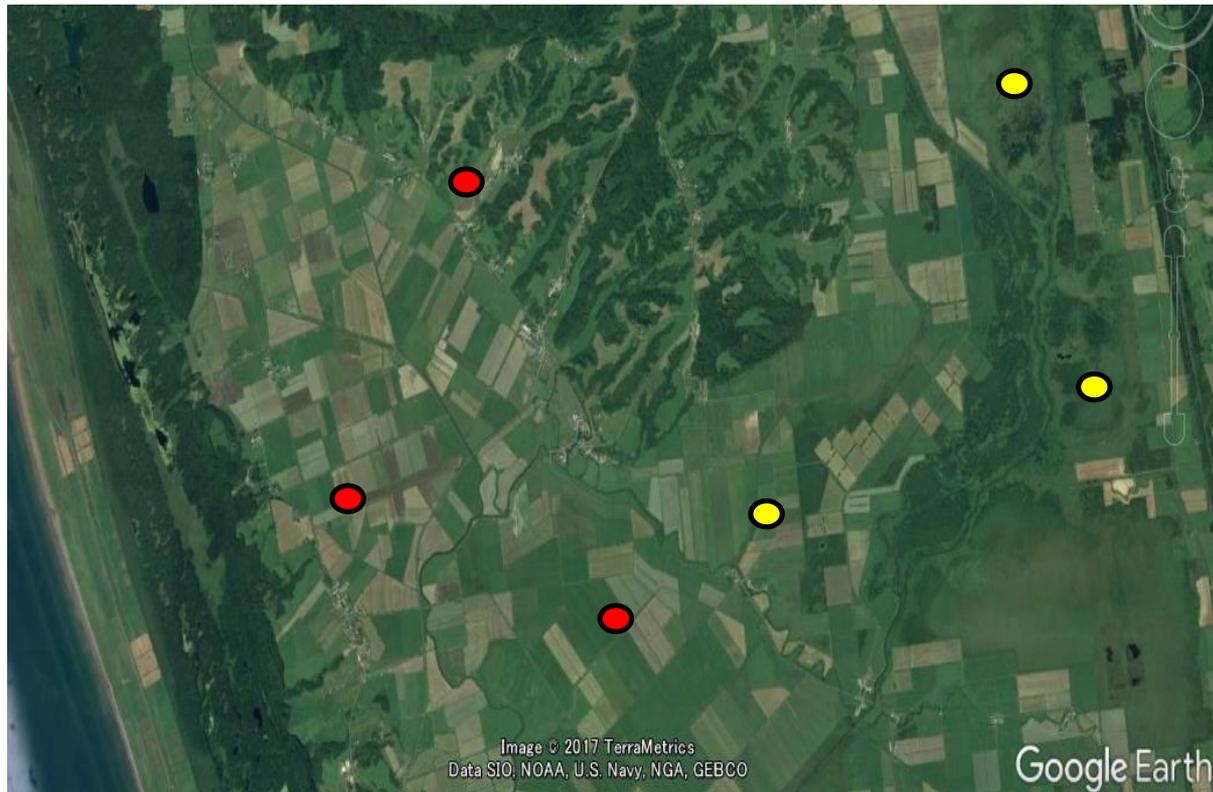
 (財)日本野鳥の会  
Wild Bird Society of Japan

# サロベツ原野周辺のチュウヒの繁殖環境



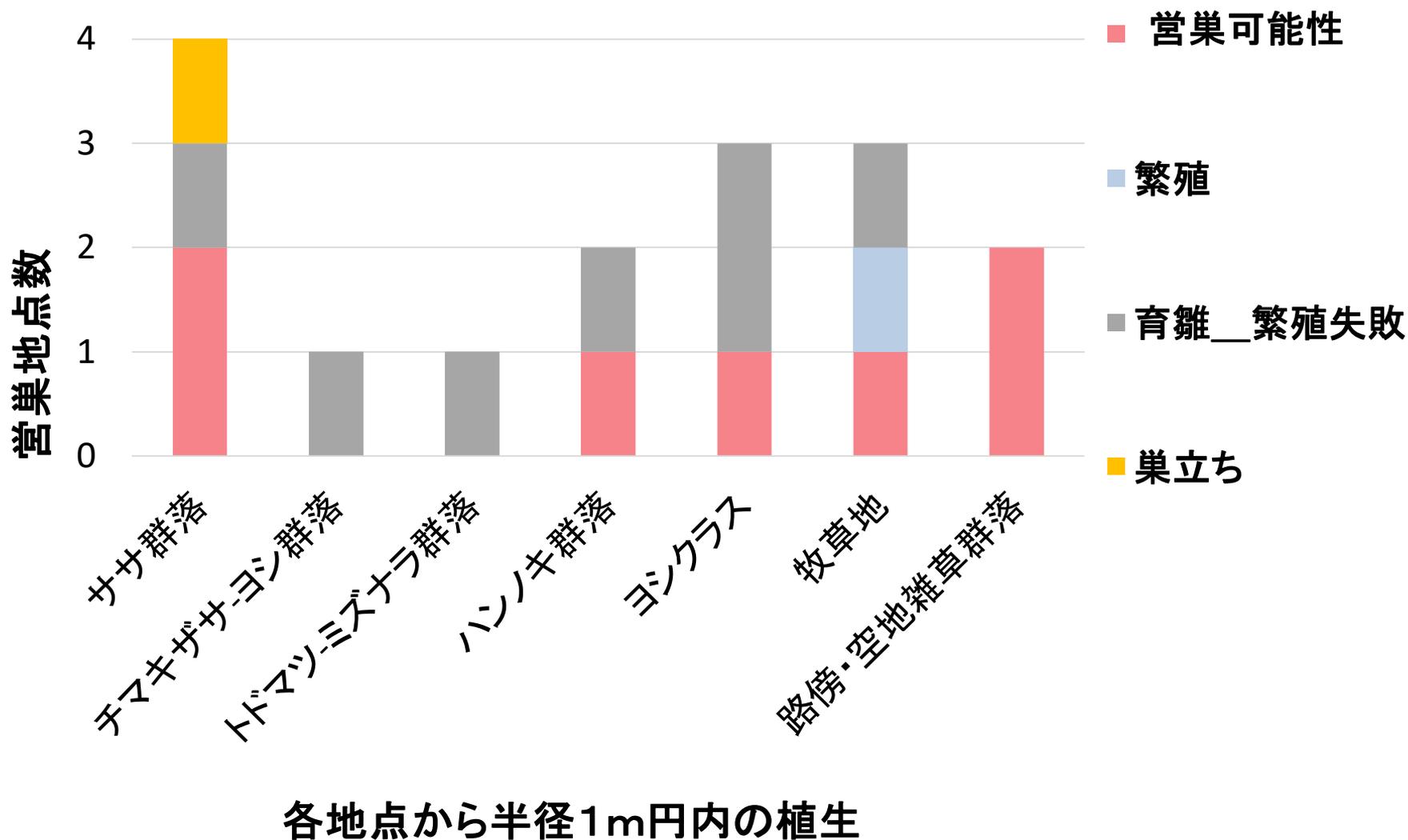
- 調査期間：2017年4～8月
- 目視観察により飛翔軌跡を記録、営巣地を推定
- 繁殖の可能性が高い営巣地16地点と  
ランダム地点の植生や周辺水域の面積を比較
- 営巣地点から植生等への最短距離と面積を比較(上右図)
- これらをGISおよび統計処理を用いて解析

# 例：ランダム地点とは・・・

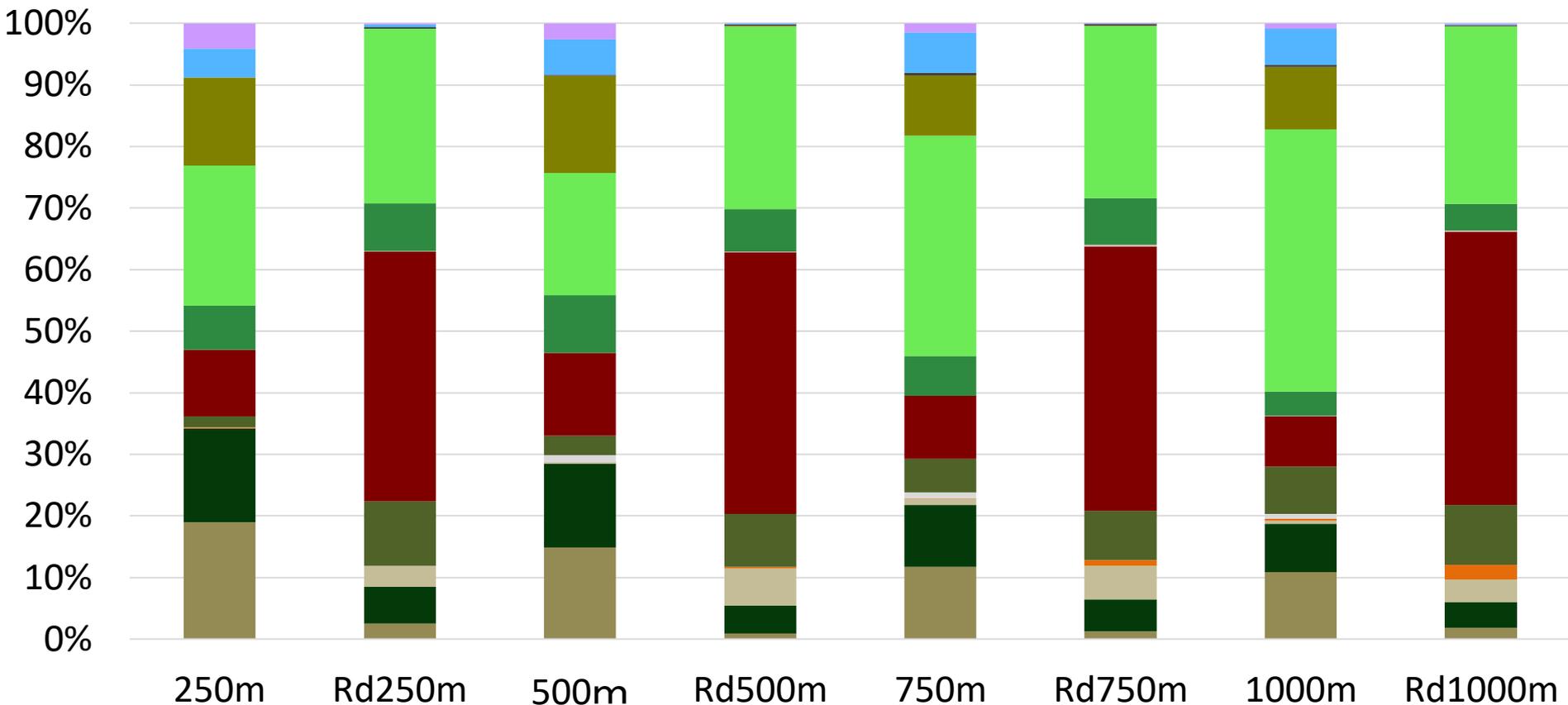


GIS上で巣がある場所(●)と無作為に抽出したランダム地点(●)の周辺環境要素を比べることで、巣がある場所の環境が巣のない場所と比べ、意味を持って選ばれていることを明らかにする

# 営巣地点の環境と繁殖状況(2017年)



# 営巣地点とランダム地点 (Rd) に含まれる環境の面積とその距離ごとの比較



- ヨシクラス
- ササ群落
- 又マガヤオーダー
- 湿地性植物
- 砂丘植生
- 針葉樹林
- 広葉樹林
- その他の樹林
- 沼沢林・河辺林
- 牧草地
- 路傍・空地雑草群落
- 市街地等
- 開放水域
- その他

# 営巣地点から植生等への最短距離と面積の比較

距離または面積のどちらかを好む傾向がみられる(係数のp値が0.05以下)

距離かつ面積の両方を好む傾向がみられる(係数のp値が0.05以下)

環境要素	距離		面積	
	係数	P値	係数	P値
水域	-0.0037	0.0000	0.000	0.0244
カシワ群団	-0.0002	0.0206	0.001	0.0050
エゾマツ	-0.0003	0.1700	0.001	0.0883
ササ群落	0.0001	0.8870	0.000	0.1416
サワシバ_ミズナラ群落	0.0005	0.2960	(0.000)	0.0008
落葉広葉樹林	0	0.2980	0.000	0.4268
ハンノキ群落	-0.0009	0.0134	(0.000)	0.8577
ヨシクラス	-0.0045	0.0129	0.000	0.0042
牧草地	0.0001	0.8140	(0.000)	0.4346
路傍・空地雑草群落	-0.0006	0.0271	0.000	0.0363

水域とヨシ原が近い、または面積が広い場所ほど  
営巣しやすい

## まとめ

- ・チュウヒはヨシ、路傍・空地雑草群落、水域が巣から近く、かつ面積が広い場所を好んで営巣する傾向
- ・ササ群落は統計処理上ではチュウヒが好む傾向が見られなかったが、ササ原はサロベツ周辺に多くある環境のため、利用していたと考えられる
- ・ヨシ原を含む湿地環境を中心に、チュウヒが好み  
そのようなササ原の保護を進める必要がある

# 英国RSPB・ミンズミア野鳥保護区

## 人為的創出湿地

- ・ヨシの育成
- ・開水面の創出
- ・水分管理徹底
- ・環境遷移停止
  
- ・ヨシ原は営巣地  
& 採餌場所
- ・周辺農地は  
採餌場所

- 
- ・英国におけるヨーロッパチュウヒの保護の草分け
  - ・この保護区内で4つがい程度が繁殖。サンカノゴイも繁殖し保護
  - ・英国ではかつて1つがいにまでチュウヒが減ったが、  
ここのチュウヒを保護し続け、今は300つがいに増えた
  - ・他の保護区や海岸ヨシ帯に広がり、欧州大陸からも分散
  - ・農地で繁殖するチュウヒは農地直接支払補償協定で保護される